



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月6日

上場会社名 リソルホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 5261 URL <https://www.resol.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）大澤 勝
問合せ先責任者 （役職名）経理部長 （氏名）齊藤 達男 TEL 03-3344-8861
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 無
決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	15,115	8.6	1,490	23.8	1,400	23.4	1,343	29.3
2025年3月期中間期	13,921	7.4	1,203	△9.7	1,134	△8.4	1,039	△10.7

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,346百万円（29.3%） 2025年3月期中間期 1,041百万円（△10.7%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	241.79	—
2025年3月期中間期	187.09	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	43,476	16,975	39.0	3,051.53
2025年3月期	43,481	16,181	37.2	2,909.53

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 16,957百万円 2025年3月期 16,165百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	100.00	100.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	5.6	3,000	11.9	2,800	9.1	2,050	5.1	368.97

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	5,564,200株	2025年3月期	5,564,200株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	7,002株	2025年3月期	8,026株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	5,556,613株	2025年3月期中間期	5,555,822株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来性に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(重要な後発事象の注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間においては、訪日外国人旅行者数は過去最速のペースで増加を続け、インバウンド消費が引き続き伸びました。観光・レジャー需要は、買い物などの「モノ消費」から体験型の「コト消費」へと移行するとともに、利便性・安全性・高付加価値を求める傾向が強まるなか、訪日外国人の大幅な増加と安定的な国内旅行需要に支えられ、堅調な状況が続いています。

このような経営環境のもと、当社グループでは、インバウンド需要への対応をより強化するために、マーケティング施策やニーズに応じた商品・プランの造成などに努めました。また、ブランドイメージの強化を目指し、接客体制や施設設備の上質化に取り組み、より高品質なサービスの提供を図りました。

さらに、グループの価値基準である「あなたのオフを、もっとスマイルに。」のもと、サービス体制を強化してお客様の満足度向上に努めるとともに、長期方針である3つの「やさしい」(人にやさしい・社会にやさしい・地球にやさしい)の実践を進めました。気候変動を含む環境や人的資本・多様性などの社会課題へ向けた取組の一環として、全社員が健康診断の再検査等の健康管理を目的として取得できる「ヘルスケア休暇」制度、ホテルやゴルフ運営部門に特化した人材育成専門部署の設立、運営施設での廃食用油のSAF(Sustainable Aviation Fuel:持続可能な航空燃料)への原料提供などに取り組みました。

ホテル運営事業では、旺盛なインバウンド需要を捉え、各ホテルにおいてアジア・欧州など地域特性に応じたプロモーション施策を継続的に実施し業績は好調に推移しました。また、大阪エリアにおいては、大阪・関西万博の波及効果もありました。主力ブランドである“リソルホテルズ”では、「物語のあるホテル」をコンセプトに、“ツーリストホテル”としての強みをいかしたブランド構築を進め、サービスと品質の向上に取り組みしました。「観る・食べる・体験する・買い物する」をキーワードに、ホテルでの滞在をより充実したものにするコンシェルジュサービスを拡充。ホテル館内での日本文化体験イベントや、専任スタッフ「サービスコーディネーター」による周辺情報のご紹介など、お客様のニーズを満たすサービス強化を図りました。さらに、将来を見据えた新たな運営ホテルの開業準備や新規物件開拓を進めました。

別荘シェア利用事業の“リソルステイ”においては、「暮らすように泊まる。」をコンセプトに滞在型貸別荘「スイートヴィラ」を80施設超まで拡大しました。利用ニーズに応じて選べる3つの滞在パターン(ウィークリー・マンスリー・デیلیー)での商品展開を推進し、中長期商品の販売数増加やインバウンド、大人数での利用に加えて、リピート数も増え利用者数は順調に増加しました。さらに、一棟貸別荘の需要拡大やインバウンドの長期滞在の変化などを見据えながら、ハイグレードな施設やアーバンリゾートエリアなど新たなマーケットへの挑戦も図りました。

ゴルフ運営事業では、夏季シーズンの酷暑対策として導入したクーラー付きカートの効果に加えて、会員権販売の好調により業績は堅調に推移しました。コース・クラブハウスの上質化、ホスピタリティの強化などでゴルフ場全体の品質向上に努めたことで、来場者及び客単価は前年を上回りました。加えて、ゴルフ&ステイ商品の強化により前年を上回る宿泊利用者を獲得しました。特に、“フェアウェイフロントヴィラ”を展開する「瀬戸内ゴルフリゾート」では、韓国を中心としたアジア諸国からの宿泊を伴うゴルフ利用が好調となりました。また、「大熱海国際ゴルフクラブ」及び、「瀬戸内ゴルフリゾート」の第二期において2027年度の開業に向けた新たな“フェアウェイフロントヴィラ”の開発準備を推進しました。さらに、将来の事業拡大を見据えて、海外ゴルフ場との提携に向けた準備を進めました。

リソルの森事業では、ゴルフ部門(真名カントリークラブ)において、コースメンテナンスの向上やクラブハウス内施設の更新などサービスの上質化に努めたことにより、客単価の上昇及び会員権販売が順調に推移しました。また、リゾートエリアに滞在しながらゴルフを楽しむ「ゴルフ&ステイプラン」について、空港間の送迎の実施により、インバウンドの利用が大きく伸びました。リゾート部門では、愛犬と泊まれる温泉付高級プライベートヴィラ“Dear Wan Spa Garden”の売上が好調となりました。さらに、ランタン・気球・蛍・観月会・フローティングサウンドバス・スポーツイベントなどの各種イベントがSNSでも拡散され集客は好調となりました。

ウェルビーイング事業(福利厚生事業)では、業界最大級のメニュー数と競合他社と差別化したプラン「精算プラン」「カフェテリアプラン(プラスユアチョイス)」「従量制プラン」を強みに、新規顧客の獲得に注力しました。また、大手金融機関と連携した新規顧客開拓が順調に進み、新規契約が増加しました。さらに、送客手数料収益の向上を図るため既存会員の利用促進を実施し、魅力的なサービスメニューの開発と利便性向上に努めました。これらの取組みにより業績は順調に推移しました。加えて、ウェルビーイング領域における新たな市場価値の創出や長期安定収益を目指したビジネスモデル構築に向けた体制強化を進めました。

再生エネルギー事業では、既存施設の管理を行いながら、売電事業及び自家消費型事業を展開。リソルの森の施設内においては1.5MWの太陽光発電設備を運営し、グループゴルフ場4ヶ所においては、ソーラーカーポートを稼働しています。また、新たなソーラーカーポートの稼働に向けた準備をグループゴルフ場の「有田リソルゴルフクラブ」で進めました。

投資再生事業では、市場環境を見据えながら、新規運営施設の仕入れ等の検討を進めました。

以上の結果、当中間連結会計期間は、ホテル部門におけるインバウンド需要が前期に引き続き堅調に推移したことにより、売上高は15,115百万円(前年同期比8.6%増)、営業利益は1,490百万円(同23.8%増)、経常利益は1,400百万円(同23.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,343百万円(同29.3%増)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、43,476百万円となり、前連結会計年度末に比べて4百万円減少しております。これは主に有形固定資産その他(純額)が304百万円増加、流動資産その他が77百万円増加、販売用不動産が72百万円増加、現金及び預金が448百万円減少等によるものです。

負債につきましては、26,501百万円となり、前連結会計年度末に比べて798百万円減少しております。これは主に長期借入金が740百万円減少、未払法人税等が53百万円減少等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2025年5月8日に公表いたしました「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,100	3,652
営業未収入金 (純額)	1,958	1,932
商品	140	150
販売用不動産	2,088	2,160
貯蔵品	60	72
その他	932	1,010
流動資産合計	9,279	8,977
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	7,645	7,698
土地	18,315	18,328
その他 (純額)	2,600	2,905
有形固定資産合計	28,561	28,933
無形固定資産		
のれん	258	235
その他	541	507
無形固定資産合計	799	743
投資その他の資産		
投資その他の資産合計	4,840	4,820
固定資産合計	34,201	34,498
資産合計	43,481	43,476

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	411	441
短期借入金	900	2,400
1年内返済予定の長期借入金	4,278	2,599
未払法人税等	154	100
賞与引当金	303	352
役員賞与引当金	28	—
その他	4,319	4,395
流動負債合計	10,396	10,289
固定負債		
長期借入金	8,783	8,042
リース債務	996	1,005
従業員特別補償引当金	103	68
退職給付に係る負債	395	396
資産除去債務	196	200
預り保証金	6,309	5,913
その他	117	585
固定負債合計	16,903	16,212
負債合計	27,300	26,501
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,948	3,948
資本剰余金	2,267	2,270
利益剰余金	9,955	10,742
自己株式	△20	△17
株主資本合計	16,150	16,943
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	15	14
その他の包括利益累計額合計	15	14
非支配株主持分	15	17
純資産合計	16,181	16,975
負債純資産合計	43,481	43,476

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	13,921	15,115
売上原価	4,078	4,450
売上総利益	9,842	10,665
販売費及び一般管理費	8,639	9,175
営業利益	1,203	1,490
営業外収益		
受取利息	0	2
受取賃貸料	4	4
受取保険金	25	17
還付金収入	6	4
債務消却益	—	32
その他	26	21
営業外収益合計	63	83
営業外費用		
支払利息	84	106
支払手数料	41	53
その他	5	12
営業外費用合計	131	172
経常利益	1,134	1,400
特別利益		
固定資産売却益	—	32
従業員特別補償引当金戻入額	—	23
特別利益合計	—	55
特別損失		
固定資産除却損	0	0
固定資産売却損	—	0
従業員特別補償引当金繰入額	25	—
その他	—	4
特別損失合計	25	5
税金等調整前中間純利益	1,109	1,450
法人税、住民税及び事業税	72	106
法人税等調整額	△5	△2
法人税等合計	66	103
中間純利益	1,042	1,347
非支配株主に帰属する中間純利益	3	3
親会社株主に帰属する中間純利益	1,039	1,343

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	1,042	1,347
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△1	△0
その他の包括利益合計	△1	△0
中間包括利益	1,041	1,346
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,038	1,342
非支配株主に係る中間包括利益	3	3

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,109	1,450
減価償却費	562	612
のれん償却額	26	22
賞与引当金の増減額 (△は減少)	39	48
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7	1
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△20	△28
受取利息及び受取配当金	△0	△3
従業員特別補償引当金の増減額 (△は減少)	12	△35
支払利息	84	106
受取保険金	△25	△17
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△31
固定資産除却損	0	0
支払手数料	41	53
売上債権の増減額 (△は増加)	73	25
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△93	△103
その他の資産の増減額 (△は増加)	112	△114
仕入債務の増減額 (△は減少)	27	29
未払又は未収消費税等の増減額	△192	32
その他の負債の増減額 (△は減少)	153	610
小計	1,921	2,661
利息及び配当金の受取額	0	3
利息の支払額	△82	△107
保険金の受取額	25	17
法人税等の支払額	△129	△161
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,734	2,412
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,204	△925
無形固定資産の取得による支出	△39	△18
有形固定資産の売却による収入	—	97
その他	9	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,234	△847

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△852	1,440
長期借入れによる収入	3,000	600
長期借入金の返済による支出	△1,626	△2,961
リース債務の返済による支出	△139	△136
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△443	△554
非支配株主への配当金の支払額	—	△2
預り保証金の純増減額 (△は減少)	△521	△399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△584	△2,012
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△83	△448
現金及び現金同等物の期首残高	3,590	4,100
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,507	3,652

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	中間連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	7,103	4,249	2,011	479	54	22	13,921	—	13,921
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	55	31	24	18	—	12	142	△142	—
計	7,158	4,281	2,035	497	54	34	14,063	△142	13,921
セグメント利益	1,126	469	194	31	25	9	1,856	△721	1,134

(注) ① セグメント利益の調整額△721百万円は、セグメント間取引消去△113百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△607百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される 財	7,102	4,044	1,945	128	54	22	13,298	—	13,298
一定の期間にわたり 移転される財	0	205	66	350	—	—	622	—	622
顧客との契約から 生じる収益	7,103	4,249	2,011	479	54	22	13,921	—	13,921
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	7,103	4,249	2,011	479	54	22	13,921	—	13,921

Ⅱ 当中間連結会計期間(自2025年4月1日 至2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	中間連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	7,929	4,446	2,143	528	54	12	15,115	—	15,115
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	86	34	26	25	—	—	173	△173	—
計	8,016	4,481	2,169	554	54	12	15,289	△173	15,115
セグメント利益又は 損失(△)	1,481	483	205	64	27	△6	2,256	△855	1,400

(注) ① セグメント利益又は損失(△)の調整額△855百万円は、セグメント間取引消去△131百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△724百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される 財	7,929	4,224	2,043	164	54	12	14,428	—	14,428
一定の期間にわたり 移転される財	0	222	99	364	—	—	686	—	686
顧客との契約から 生じる収益	7,929	4,446	2,143	528	54	12	15,115	—	15,115
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	7,929	4,446	2,143	528	54	12	15,115	—	15,115

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

当中間連結会計期間より、報告セグメントの名称を「福利厚生事業」から「ウェルビーイング事業」に変更しております。このセグメント名称変更による各セグメントの業績に与える影響はありません。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の名称により作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)
該当事項はありません。